



JSAT/JNO WELLNESSリーダー共催企画第二弾

JAL × 阪急 阪急電鉄車庫見学と社員交流ウォーキング報告書

(株)JALセールス 西日本支社

(株)JALナビア 大阪センター

概要

日時:2018年11月17日 10時30分～19時30分

場所:阪急電鉄平井車庫見学・猪名川河川敷・伊丹空港格納庫

参加人数:JALグループ社員76名 阪急電鉄社員28名

目的:①関西地区のJALグループ社員の健康促進
②同じ関西地域で輸送事業を手掛ける阪急電鉄社社員との交流を深める

内容:①阪急電鉄平井車庫見学と洗車体験
②JAL・阪急混合チームに分かれて、ゲームやクイズを行いながら、阪急池田駅から伊丹空港までウォーキング
③伊丹空港で航空機教室と格納庫見学
④懇親会とゲームの表彰式

イベントの様子(阪急車庫見学)

朝からのイベント開始にもかかわらず、他社交流の初イベントに多くの方が参加してくださいました。今回のイベント募集をしたと同時に、電車が大好きなお子様との参加希望が殺到したため、急きょ親子コースを設定。ウォーキングはせずに、阪急車庫見学とJAL格納庫見学のみ実施する形で、小さなお子様にもご参加いただけるように工夫した。

阪急車庫では2班に分かれて、車庫全体を歩いて見学していただき、車内でのアナウンス体験と洗車体験をしていただいた。車庫の広さに驚く方、下から見上げる電車の大きさに感動している方、車輪の細部まで必死に写真を撮っている方など、それぞれが各々の目線で楽しまれている姿がとても微笑ましく印象に残っている。



イベントの様子(ウォーキング)

JAL+阪急混合の8チームに分かれ、阪急池田駅から伊丹空港までの約4.7kmをウォーキングしていただいた。さらにチーム内の親睦を深める目的で、コース道中にいくつかゲームポイントを設け、そのゲームの総合得点をチームで競ってもらった。

【ゲーム概要】

- ①暗号ゲーム・・・指示書に記載されている暗号を解読し、早くできたチームからスタートできる。
- ②難問クイズ・・・JAL・阪急・健康をテーマにした難問クイズを解いてもらうゲーム。
- ③記憶力ゲーム・・・計50個の阪急の駅名と国内海外の空港名を1分間にいくつ記憶できるかを競う。
- ④万歩計早振り競争・・・1分間万歩計を振ってもらい、チームの平均値で競う。
- ⑤ナンバーストライクゲーム・・・的にボールを投げてもらい、チームの合計得点を競う。



イベントの様子(ウォーキング)



※ナンバーストライクゲームの様子(左写真)
ポイント2倍になるひとし君ボールも作り、チーム一丸となって楽しんでもらえる内容にした。



※記憶力ゲームの様子
(上写真)

駅名や空港名はすべてカタカナで記載し、字体やフォント、向きもバラバラに配置し、少し覚えにくい状況を作った。

※万歩計早振り競争の様子
(右の写真)

みなさん、意外に長い1分間に苦戦されていた。



イベントの様子(JAL格納庫見学)

ケガやトラブルもなく、全チームが伊丹空港までゴールできた。その後は、伊丹空港の格納庫に移動し、JALECのご協力のもと、整備場の見学と航空機教室を開催した。

状況によっては機体がないことも想定していたが、重整備に入っていた機体1機と見学中にもう1機格納庫に入ってきたので、抜群のタイミングでの見学となった。阪急社員の中には、飛行機が好きな方が多く、普段見ることができない角度から写真を撮っていたり、細部まで覗き込んで見学されるなど、みなさんの少し興奮した様子がとても印象に残っている。



懇親会の様子

イベント終了後は懇親会を開催。短い時間ではあったが、互いの労を労い、楽しそうに話している様子や笑い声が会場に響いていたのがとても印象に残っている。また、ゲームの表彰式や大西特別理事の時間など、懇親会でのみ実施するゲームを用意するなど、とにかく参加者が楽しんでいただける環境作りを心がけた。



優勝したチームのみなさんで一枚パチリ。笑顔が素敵です。(上写真)

大西特別理事による抽選会の様子。(下写真)



阪急電鉄執行役員、人事部長兼健康保険組合理事長の高橋さまから閉会のご挨拶。(上写真)

前日航健保理事の田口さまによる、ジャンケンゲームの様子。(右写真)



まとめ

当イベントの開催にあたり、夏ごろからJAL・阪急両社で一から企画し、何度もミーティング・リハーサルを重ね、やっとの思いで開催に至り、ケガ人やトラブルもなく無事に終わられたことに安堵している。初回ということもあり反省点は多かったが、参加者から楽しいイベントであったなど、うれしいお声を多く頂戴することができた。施設見学されている真剣な眼差しや、楽しげにウォーキングする姿を見ていると、開催できたことへの感謝と他社交流の意義深さを改めて感じる良い機会となった。大阪発の陸と空のコラボレーションを今後も継続していきたいと強く感じた。

